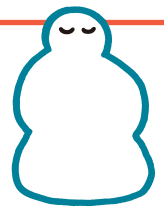


# ことこ通信



## Vol.2 ことこプロジェクト視察レポート in 九州



8月の末から本格的にキックオフした「ことこプロジェクト」のことを、ゆったりたっぷりのんびり発信することこ通信です。Vol.2となる今回は、9月末に行った九州への視察旅編でございます。

### 九州とことこ旅

話している人 三井 直義 (Alchemic Designs)

僕たちがこれからつくる新たな居場所では、孤独・孤立の対策をするというミッションに対して、たくさんの方が集うことで直接または間接的にまちの孤独・孤立を減らしていく、という解釈でアプローチしようと思っています。でもそのためには、まちのなかで存在感を発揮して、魅力ある何かをつくっていく必要があります。今回

は、八王子から約1000km、九州の糸島市、玉名市、益城町にある、まちの中で魅力を振りまいている施設を訪ね、見て聞いて感じてきたことをまとめました。

関わる人の手で最大化・最適化された魅力がそれぞれの施設にあって、そこにはさらにまちのクリエイティブな人が集まって、次第にまち全体を巻き込んでどんどん地域の魅力が増してゆく・・・さいこーに素敵な人たちと出会いながら、「ことこ」のヒントをたくさんもらってきたので、是非お読みください。



## ことこプロジェクト

### 視察レポート in 九州

日時 2025年9月29日・30日

文責 平井未央(iii architects)

視察対象施設

- ・オープンコミュニティスペース みんなの(福岡県糸島市)
- ・HOME tamana(熊本県玉名市)
- ・益城町復興まちづくりセンター「にじいろ」(熊本県益城町)
- ・ましきこがみ舎(熊本県益城町)

ことこプロジェクトの参考になりそうな施設を日本中探したものの、「孤独・孤立対策」を主題にしている場所はほとんど無く、視察先を決めるのも難航しました。これまでにない居場所をつくろうとしているから当然とも言えますが、検索ワードすら悩ましく、知り合いづたいにヒアリングしながら、決めていきました。最終的には、「公民館」や「図書館」といった用途を表す名前がついていない、自由な使い方を許容している場所を中心に、地域振興寄りの施設から福祉寄りの施設まで、大小さまざまな4箇所を訪ねました。

#### 1. オープンコミュニティスペースみんなの

(福岡県糸島市)

はじめに訪れた糸島市の「みんなの」では、コワーキングのようにテーブルが並ぶスペースに加え、イベント利用もしやすい大空間があり、目的の異なる人々が自然と出入りしていました。利用者をスタッフとして巻き込む画期的な仕組みによって、まさに“みんなの”手で居場所が育っている様子にとっても刺激を受けました。スタッフとなった人は自由に居場所を使用できる「権利」と引き換えに1ヶ月に数回店番をしています。30人という大人数でまわすことで、1人あたりの負担はそこまで大きくありません。また場所を見守る対価が金銭だけではなく、「その場所をいつでも使える権利」となる仕組みには多くの需要があり、中には子連れでスタッフをされる方もいるそうです。

イベントは小さな教室も含めると年間なんと200回以上行われているそうです。複数のカーテンで空間を自由に仕切れるようになっており、カーテンで区切られても問題なく使用できるように、あちらこちらにコンセントがあり、Wi-Fiはもちろん、プロジェクター、マ

イク、ホワイトボード、プリンターなどの設備も充実していました。飲食提供は行っていないものの、近所にあるコーヒー屋さんのドリップパックとウォーターサーバーがあり、自分で淹れることができます。ヨガ教室などで重宝されている大きな鏡や、集中できる個人ブースも備わっており、単発的な利用から長期的な利用まで、多様なニーズに応える場所でした。図書館とは違って基本的には騒がしい場所という前提を設けていることで、あまりにも騒音になっている場合を除いて、利用者同士が対話をしたり、子供が自由に動き回っても止めることはしないそうです。



みんなのでレクチャー

孤独孤立対策を目的としてできた施設ではありませんが、「みんなの」に出入りする人はリモートワーカーやフリーランスの方など、ひとりきりで仕事をする人が多く、居場所に来ない時は、ランチを食べるのも一人だったり、人と接さないまま1日を終える方も多いそうです。そんな方たちが「みんなの」に来ることで、他者と関わる機会が生まれているようでした。子供は子供料金で滞在できるため、平日に不登校の子が自由に過ごしている姿も見られるそうです。様々な需要に応える居場所は、結果的に孤独孤立している人のよりどころになり得るという実例を知ることができ、とても勉強になりました。

さらに、「みんなの」の運営者であるいとしまちカンパニーの面々によって、商店街にも複数の拠点が点在していました。同じ運営主体と思えないほど、それぞれ個性的で異なる事業をしている居場所が面的に広がっていることで、日によって過ごす場所を選べる魅力的な町になっていました。どの居場所も複数人で協力することで成立しているという点では、ある種の統一感はあるのですが、各場所ごとにコンセプトや内装が全く異なり、店主の個性がそのまま空間に現れていると

ころが印象的でした。ことこプロジェクトでは、まずは1つの居場所をつくるのが目標ですが、ゆくゆくは八王子全体へ面的に広がっていけると良いな、と夢が膨らみました。



みんなのスペース



糸島の街歩き

#### 2. HOME tamana (熊本県玉名市)

玉名市の「HOME」は、訪れる前はコワーキングスペースの側面が強いのかと思っていましたが、実際には勉強する学生や休憩する人など、多様な人が集う“図書館以上カフェ未満”の居場所でした。「HOME」にも地域の人々がネイバーズとして店番を担う仕組みがあり、ネイバーズが主体となって勉強会やおはなし会を行うこともあるそうです。祭りのような大々的なイベントよりも、集まってラジオ体操をする、など日常的な活動を大切にしており、運営者が中心となって地域に合ったイベントを企画していました。まだオープンして日が浅いのもあり、利用者からの持ち込み企画は少なく、運営側でこの場所の使い方を地域の方に示している段階、という言葉に、この場所を地域の方と共に少しずつ形づくってきたいという想いを感じました。

「HOME」も孤独孤立対策を目的とした施設ではありませんが、利用者の中には、地域で孤独感を感じていたけれど、玉名に居ることを肯定的に思えるようになったという方もいたそうです。飲食店であればニーズに合わせてメニューを増やしたり工夫できるけれど、「HOME」

は使う人がやりたいことを持ってくる場所で、居場所の機能が利用者に良くも悪くも依存してしまう、という悩みを共有していただいたのですが、今後ことこプロジェクトでも重要な課題になると思いました。また、代表者一人に依存してしまう運営ではなく、店番をするネイバーズにも自分自身で考えながら運営に関わってもらえるように、細かい運営ルールは作らず、何か利用者から相談や質問が来た場合、都度考えて答えてもらうようにしているそうです。手探りながらもすでに「HOME」らしい暖かさが漂う施設で、つい長居したくなる空気感がありました。



HOMEの空間



会議室



近所にあるHIKEで昼食

#### 3. 益城町復興まちづくりセンター「にじいろ」

(熊本県益城町)

益城町の「にじいろ」は、無料で使える公共施設のため、“待ち合わせ”や“囲碁”など、ちょっとした用途でも気軽に利用されていました。靴を脱ぐスペースがあることで、仕事をする人の隣で子どもが寝転がるなど、リビングのように過ごす利用者の姿が見られました。はじめは受付に立ち寄らずとも利用できるようにしていたものの、管理人の方が、利用者がそれぞれ何をしているか不明で不安という理由から、入館したら名前と目的をまず記帳するシステムになっていました。イベントなどは、申請されたものを審査するという手順を取ることで、しっかり事前にすり合わせを行ってから、利用許可を出していることが分かりました。バス



が建物の目の前に停まることから、バスの待合スペースにもなっており、より日常的に利用する人が増えていると見受けられました。



リビングのような空間

#### 4. ましきこがみ舎（熊本県益城町）

同町の「ましきこがみ舎」では、シングルマザーや不登校の子どもたちを支援しており、対象となる女性は忙しく、時間が無いことが多く、主体的にイベントを企画することは難しいことや、時間や周りを気にせずおしゃべりできる場所があるだけでも喜ばれるという実態についてヒアリングできました。お家のような古民家の雰囲気によって、公的な建物だと敷居が高いと感じてしまう人も安心して過ごすことができるのだろうと感じました。



古い倉庫を改修した空間

#### 視察を終えて

どの場所も共通して、当初の想定とは異なるニーズが出てくるたびに、運営しながら柔軟に変化していることが分かりました。多様な人を受け入れるからこそ、どこまでの使い方を許容するかなどは日々判断している様子で、完成形をはじめに定めないことで、地域と一緒に居場所を育てることができていると感じました。中でも「何をして良い場所か分からない」と利用者に言われたという話が印象的でした。その話を聞きながら、最近あちらこちらでよく見る箇条書きで並べ立てられた「禁止事項」の張り紙と対照的に、「こんなことをしてみても？」という“おすすめ事項”を箇条書きで書きまくってもいいのかも！というアイデアが、ことこチームのメンバーから早速出たのも面白かったです。

視察に行くまで、孤独孤立対策のための居場所をつくるのが難題と感じていましたが、他者と「居合わせる」ことができる場所や、地域の人々が「居場所の一員」として関わるしくみがあることで、結果的に孤立状況にある人にアプローチできたという話も伺え、プロジェクトの方向性が前より鮮明になりました。今回の視察には約10名のプロジェクトメンバーが参加し、文章や写真だけではなかなか伝わらない、居場所の空気を全員で共有できたことが大きな収穫でした。それぞれが見つけた沢山のヒントを繋ぎながら、ことこらしい居場所を育てていきたいです。



プロジェクトメンバー全員で記念写真

#### お問い合わせ



八王子  
ことこプロジェクト  
ホームページ

株式会社まちづくり八王子 三井直義 (Alchemic Designs)  
n.mitsui@alchemicdesigns.net

過去の通信も  
みれます



#### 書いた人



iii architects

#### SNS

Instagram  
@cotoco.hachioji  
facebook  
ことこプロジェクト

日々更新中